時事新報

第千四百六十號
明治十九年十二月十六日木曜日
舊丙戌十一月廿一日(庚戌)
(西暦一千八百八十六年)

時事新報定價 (明治十九年十月一日改正)
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ配送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月廿六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

止むことなくんば鐵道の事を擧げて外人に任す可し

日本國に鐵道の要用なるは論を俟たず之を敷設するに官設あり民設あり其民設に就ては政府より民設鐵道條例なるものを頒布して法律上に叶ふ丈けの保護を與へて以て民業を奬勵す可しとは我輩の持論なれども竊に今の時勢を察するに其保護なるものは線路に當る民有地の買取に官の力を貸し、其官有地を無代價にて讓渡し線路外にても官有地なれば左右何百間と起工者に附與する等の特典に止まり彼の日本鐵道會社が利益の有無に拘はらず資本金に對して年八分の利益を保護せらるゝが如き好都合は最早望む可らざる事ならんと我輩の臆測する所なり此臆測にして大に違ふとなくんば今の民間の資本家は果して其私有金を鉄道の事業に卸す可きや少しく疑なきを得ず民間の金穴は數年來の不景氣失敗に懲りゝゝして事業を起すなどの念は既に已に地を拂て斷絶し唯無事に堅固に利足をさへ得るの道あれば其割合は低きを厭はず七分利付の公債證書を玉の如く抱きたる其七分利は整理せられて將に五分に減縮せんとするにも拘はらず又五分利に取て掛り之を買入れて餘念なき程の次第なれば假に今政府より民設鉄道の起業を許されても彼の金穴等は鉄道永年の利益とば度外に置き唯政府の保護何分ありと云ふ其何分の利子を目的に資金を出す迄にして例へば日本鐵道會社の如く八分の保護あれば是れは八分利付きの公債證書に似たりと云ひ或は五分の保護を願取りたらんには是をは整理公債證書に等しとて公債證書と見るの眼を以て鐵道會社の株券を眺め以て始めて安心も可き者なれば政府より利子の請合なくして民間の資金を引出すは極めてむつかしき事なる可し且民間は私に鐵道を敷設せんとするも其事に慣れたる人の少なきのみか日本國中に技術家さへ乏しき次第なればいよゝゝ民設の鐵道を企てゝ故障なしとするも其着手に臨んで工事に差支を生ず可きや疑ひもなきとなり今日官設の鐵道工事に就ても技師の乏しきは我輩の毎に耳にする所にして假令資本金を積んで山を爲すとも日本の鐵道は容易に成る可きものにあらずと云へり左れば今日民設の鐵道は政府より年に何分の利益を請合ふにあらざれば内國に資本を得ること易からず假令へ或は之を得たりとするも技師を用ること自由自在ならざれば工事に着手も可らず甚ざ以て困り入たる場合なりと云ふ可し依て今こゝに我輩の所見を以て一案を呈すれば外國の資本家に托して工業を起さしむる歟又は内國の資本家が外國人と謀りて事を與にするの工風あるのみ外國人の眼を以て日本國中を見渡しゝらば鐵道の敷設す可き地方は必ず少なからざる事ならん我政府より相當の保護を與ふるに於ては何分の利益を請合ふにも及ばず永遠の利を目的にして資本を卸す可きは我輩の信ずる所なり且其工事の如きも彼の國人の手に執るときは誠に容易にして百里の鐵道も數月に成ると告ぐ從前緩漫なる我鐵道工業と見慣れたる日本人の膽を破るほどに目覺ましきことなる可ければ資本金に心配なくして工事は容易なり何を苦んで躊躇するや鉄道を欲する者は速かに外國人と相談を開くべきなり唯これ一段に至て差支は鐵道は一國永遠の利益あるを擧げて之と無縁の外人に授くるは殘念なりとて之と拒むの説もある可しと雖ども是れは所謂凡庸の愚痴たるに過ぎず日本の鐵道果して大利益あらんには外國人が内地雜居不動産所有の權利を得たる日に金を以て鐵道會社の株式を買取りさへすれば既成の鐵道も盡く外人の手中に歸すること易し既に株式の多數を占るときは役員の撰擧も外人の思ふがまゝにして日本人は日本國に居ながら外國の汽車に乘るの姿に立至る可し然らば則ち今日新に鐵道を作るに之と外國人に任するも内國人の手に取るも何ぞ之を差別するに足らんや資金に豐にして工事に巧みなる者が事に任ず可きは誠に自然の道理にして是より外に奇計妙策はなる可らず故に日本の金滿家が政府に向ひ例外特別の保護など云はずして永年の利害を考へ自から奮て私立の事業を企つれば則ち可なりと雖ども退守一偏の卑屈根性にて鐵道會社の株券をして公債證書と同樣の性質たらしめんなどの所望ならば我輩は斷じて此輩に依頼せずして外國人を導き入れんことを欲する者なり

官報

○條約改正會議 各國全權委員は昨十四日外務省へ參集し午後二時より第十五回の會議を開き同四時十分一同退散せり次會は來る十八日開く筈なり (本年十二月十五日官報)

雜報

○米國近状(去る十一日の續)

現大統領クリーヴランド、治世の概況

合衆國の北部には概して製造家商家多く其南には農業に從ふ者多し製造家商家は自ら政府の保護を頼むの心あるも農家は自ら土地氣候の變に應じて州々其好む所の制度を建て成る可く減税を願ふの心あり左るから北部諸州の商人及頭製造家などは大抵同盟黨を助け南部諸州の農家は何時となく共和黨(レパブリカン)に屬せり兩黨相爭ふの餘同盟黨は遂に英國政体(中央集權を云ふ)を贊成し共和黨は佛國政度(地方分權を云ふ)を倣ふて各州政治に關するの權を主唱するに至り數年の後佛國と開戰の際さ世に喧しき際同盟黨の人々が外人取押條例及一揆條例の發布を贊けたるは一大失策にして是れぞ同盟の衰運を來したるの大原因なり千八百一年セブソン大統領と爲り專ら内治政策を取りし頃には國人の氣風一變して共和黨の人々は終に從來の意見を擲つて新思想を抱くに至り此時より同盟黨の衰運愈甚しく十餘年を經て全國殆んど共和黨に屬したり千八百十二年再び英國と開戰を布告して同十四年英國と平和を結びたる後暫くは非戰を主張せる同盟黨は國の面目に注意せぬと云を以て人望地に墜ちて終に全く相滅びて國中共和黨の一黨を遺したりしが其頃共和黨の人々は或はレパブリカンと呼び或はデモクラットと呼び一黨中自ら兩名を稱へりアダムス治世中外務卿ヘンリー、クレーは大に保護税を課して其收入を以て內國改良の費に充てん事を主張せり此時尚は國中唯々一黨なりしが黨中クレーの課税を贊成する者あり反對するものありて一黨相分れて又二派を生ずるに至れり即ち之れを贊成するものはナショナル レパブリカンと稱へ之れに反する者はデモクラットと呼べり今日の合衆黨は即ち此末裔なり幾干ならずしてナショナル レパブリカン は名を變へて新たに改進黨(ホイッグ)と稱へしが大頭領ボルクの治世中デモクラット大に勢力を得クレーの主唱せし課税説は何れへか消へ失せたり其後數年を經て廢奴の説漸く世に喧しくなりしより改進黨中北部の人々は廢奴を唱ふる者多きが故に南部の黨員は其黨を辭してデモクラットに加はりたる者も多く遂にテールル氏の大頭領となりし頃は國中デモクラットの外に政黨と稱ふ可き者なきに至れり此時廢奴の説益す盛なして北部の人々は概ね廢奴を主唱し南部は之とに抗して千八百五十四年カンサス、ネブラスカ條例の發布さるゝや北部に於て廢奴説を主張する者は從來何れ黨派に在りたると問はず茲に一大團結して新にレパブリカンと稱ふる一大政黨を結びたり是れ今日米國レパブリカンの元始なり廢奴の説日を逐ふて世間に喧しく際政黨の混雜は名狀も可らずデモクラットは南部にレパブリカンは北部に相對峙して勢ひ兩虎の如く視眈々たる最中に又幾多の小黨派を生じて千八百六十年大頭領の候補を撰擧せらるゝは凡て左の四黨ありき

レパブリカン　合衆國々會は合衆國の所領に於て奴隷の制を禁ずるの權を有する而已ならず之れを禁ずるの義務を負ふものなり

南部デモクラット　何人にても所有の奴隷を携へて合衆國所領に來る時は合衆國々會は其地に於て奴隷の制を保護するの權を有する而已ならず常に之れを爲すの義務を負ふものなり

北部デモクラット　合衆國各所領地の人民は其地内に於て從前の通り自ら奴隷の件を所置す可き筈なれ共願くは合衆國大審院の裁判を受くべし

アメリカン　合衆國憲法を奉じて法律の實施を助け奴隷一件の故を以て諸州の同盟を破らざる樣注意すべし

以上四黨派は其主義各々異なるにも拘らず千八百六十年大統領の撰擧にはレパブリカン殆んど全勝を得以來合衆國の政權は常に同黨の手中に落ち南北戰爭其局を結び奴隷の制も廢せられ共和黨は國内の政治を縱ままに左右したり其間終始此黨に反對して其平衡を保ちしは南北兩部に散在せるデモクラットにて是より全洲二黨に歸しレパブリカン、デモクラットと立別れたり爾來廿餘年合衆國の政權はレパブリカンの手に落ち前大頭領アーサー氏の治世中保護税の件は再び政治上の大問題となり抑も南北戰爭の最中より政府は歳入を增加し傍ら高税を收むる事を得べき製造を奬勵せんが爲め大に保護税の額を增したりしが其後殖産興業の盛なる旭日昇天の勢を示して全世界に殆んど其比を見ざる程なれば政府の歳入も從て以前に幾倍し且ペース氏の治世中整理公債を發して舊公債の償却を始めたるに人民の方にては却て此償却を好まず政府は尚ほ數年間舊公債の所有を許す代りに其利足を減じたり年々仕拂ふ可き利足の額減じたれば政府の歳入益す餘裕を生じて他の諸税を減ぜん事を謀りたれ共差當り何れの項目に減額と試みて可なるや隨分其方法に苦しむ事あれば平生此事に委しき人々を撰びて終に海關税減額委員を命じたり千八百八十三年政府は該委員の報告書に基き大に税額と改正したれ共兼て豫期せし程の減額に及ばざりし故デモクラットの人々は國會に於て尚ほ大に之と減殺せん事を主張したりしが終にレパブリカンの爲に壓倒せられたり是ぞ昨年の冬大頭領撰擧の砌減税の件が政治上の最要問題となりたる所以なり (未完)

○南洋巡航紀聞(昨日の續)　志賀重昂

濠洲の前途　濠洲の各植民地が本國と分離して自立聯合するの成否に到りては今日に當りてこれを判斷すること易からずと雖も往と推して來を察すれば其前途の大勢を推想するは難きにあらず蓋し近年歐洲各國にては虛無、社會、共產、無政等の主義中等以下の人民の間に行はれ動もそ……だ拂えとせず其……る人民が漫に過……義を懷抱し竟に……其主要なる大原……即ち舊開國の狀……事業甚だ暢せ……少し勞力の競爭……り是に於てか運……く富者と驕望し……自己の落魄を長……と化し漸く長ふ……のならん而して……轉倒するに非ざ……然れども天斯の……るの法無してせ……する原因は單に……若夫れ此が衣と……るなきば一片不……あらん而して此……用繁多にして且……誘致するの一法……密なると以て土……農家の規模も亦……ず且土壤の殘餘……國を開墾せざる……の凋歇、地質の……る事あらん是に……平不滿の念は其……ると得ざるなり……して土壤廣く且……、又舊開國に於……く頽敗して汚穢……原子を發育する……大氣新鮮にして……若かざるなり、……殖して生計の程……廉耻、放蕩、自楽……漸く倫理の淩夷……此れを矯正する……て衣食住の缺乏……の面積は四十八……百萬あり即ち一……す試みに是を日……億二千五百二十……を我國淡路島の……四億八千零十六……未ざ空地の殘餘……陸と遁りて此蒼……るべきなり

一度泥棒すれば (Once a thief……

人に勸めて戰爭…… (Never advice……

"Why do you …… toper. "Because, my …… enough to eat." (Criti……

或る禁酒會員が……な樣らはしいも……どには困まつて……

○今日の緣日　淺草吉野町淨土……

寄書

○外務省の出入頭數したるが流……らるゝ所丈けは……て平民の身分で……する事と得るは……繁多にして遷……方の便宜なる殊……奏任とかの區別……けるなどは到底……り度ものなり